



企業価値レポート・ラボ創設記念イベント

JAPAN IRサミット2015

日本のInvestor Relationsは情報開示や
engagementの課題を経て、新たな歴史を刻む

日本企業におけるInvestor Relations（投資家向け広報）は大きな変革期を迎えています。海外からは、株主を企業の中心に置くガバナンスモデルに対する課題も聞こえてきています。そこで、企業価値レポート・ラボでは、JAPAN IRサミット2015を開催することとしました。資本市場と向き合い、その最前線で活躍されている方々を迎え、日本企業が海外のリスクマネーを呼び込むための秘策や、投資家行動から見えてくる、日本企業として取り組むべき課題を情報開示やengagement、コーポレート・ガバナンスの視点から、専門家・投資家・企業の立場から掘り下げていただきます。とくに、日本企業の中長期的な価値創造を伝えるための情報開示に焦点を当て、多角的な議論を重ねていただくとともに、英国や南アフリカで進む強制開示とは異なる状況の中、国内での自発的な情報開示への取り組みの実情にも触れ、グローバルな観点から、その鍵となる点を整理していただきます。

※ JAPAN IRサミット2015は、企業価値レポート・ラボの創設記念として企画しました。企業価値レポート・ラボ（運営：EDGE基礎研究所）は、「対話先進国」を目指している日本の方策や環境づくりに貢献し、統合的な企業情報開示やKPI、中長期の投資判断に有用なレポートの知見を集約し、中立的な立場から、情報発信をしていきます。国内外の関係者の皆様との交流の場としても、活発にご利用いただけるよう努めていきます。

日 時 2015年 **11月5日(木)** 13:50～17:50 (受付開始13:30)

会 場 ベルサール東京日本橋 Room3

東京都中央区日本橋2-7-1 住友不動産東京日本橋タワー 5F

(アクセス:http://www.bellesalle.co.jp/room/bs_nihonbashi/access.html)

○ 東京メトロ銀座線・東西線、都営地下鉄浅草線「日本橋駅」直結、東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前駅」B6出口徒歩3分

対 象 上場企業のIR、広報、CSR、経営企画、経理・財務部門の担当役員および担当者

定 員 100名(定員になり次第締め切らせていただきます。)

参加費用 ¥7,000 (資料代)

○ 日本IR協会の会員企業様(以下、参照)は¥5,000にてご参加いただけます
(Peatixより、申込時にIR協会会員チケットを選択ください)。

<https://www.jira.or.jp/corporate/list>

主 催 企業価値レポート・ラボ

後 援 日本IR協会、IIRC (国際統合報告評議会)日本事務局

企画運営 EDGE基礎研究所、株式会社エッジ・インターナショナル

お申込み

Peatix (外部サイト) <http://peatix.com/event/114653/view>よりお申し込みください。

お問い合わせ

03-3403-7750 (株式会社エッジ・インターナショナル内 JAPAN IRサミット2015事務局:岡田、江森)

総合司会

小澤 ひろこ氏 国際統合報告評議会(IIRC)日本事務局

ごあいさつ 13:50-14:00	安井 肇氏 JBAグループ顧問、一橋大学CFO教育研修センター客員研究員
講演Ⅰ 14:00-15:00	機関投資家・企業に必要な改革と課題 堀江 貞之氏 野村総合研究所 金融ITイノベーション研究部 上席研究員
講演Ⅱ 15:00-15:30	統合レポートへの挑戦 オムロンの取り組み 安藤 聡氏 オムロン 執行役員常務 グローバルIR・コーポレートコミュニケーション本部長
講演Ⅲ 15:30-16:00	統合レポートへの挑戦 日本郵船の取り組み 小杉 和枝氏 日本郵船 経営企画本部 広報CSRグループ CSR推進チーム チーム長
休憩20分	
パネル ディスカッション 16:20-17:50	<p>これからの企業報告の意味とは —中長期視点を持った企業レポートिंग—</p> <ul style="list-style-type: none"> 投資家行動から見てくる、日本企業として取り組むべき課題とは？ 株主を企業を中心に置くガバナンスモデルに対する課題はむしろ増しているのではないかと？ 日本企業が海外のリスクマネーを呼び込むための秘策はあるのか？ IIRCや国内での企業報告の自発的な取り組みは本当に活かされるのか？ <p>出演者</p> <p>堀江 貞之氏 野村総合研究所 金融ITイノベーション研究部 上席研究員</p> <p>安藤 聡氏 オムロン 執行役員常務 グローバルIR・コーポレートコミュニケーション本部長</p> <p>小杉 和枝氏 日本郵船 経営企画本部 広報CSRグループ CSR推進チーム チーム長</p> <p>三瓶 裕喜氏 フィデリティ投信 ディレクター・オブ・リサーチ</p> <p>井口 譲二氏 ニッセイアセットマネジメント チーフ・コーポレート・ガバナンス・オフィサー、担当部長</p> <p>佐藤 淑子氏 日本IR協議会 専務理事・主席研究員</p> <p>モデレーター 安井 肇氏 JBAグループ顧問、一橋大学CFO教育研修センター客員研究員</p>

出演者経歴

堀江 貞之氏

1981年株式会社野村総合研究所入社。1986～88年ニューヨーク事務所勤務、オプション・モデル等を開発。1996～2001年野村アセットマネジメント。34年にわたり、証券アナリストジャーナル、企業年金、年金と経済等の専門誌に数多くの論文を発表。GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)運用委員長代理、大阪経済大学大学院客員教授、公的・準公的資金の運用・リスク管理等の高度化等に関する有識者会議委員(2013年7～11月)、日本版ステューワードシップ・コードに関する有識者検討会委員(2013年8月～2014年2月)、コーポレートガバナンス・コードに関する有識者会議委員(2014年8月～2015年3月)、年金積立金の管理運用に係る法人のガバナンスの在り方検討作業班委員(2014年11月～)。

安藤 聡氏

1977年慶應義塾大学法学部卒業。東京銀行(現 三菱東京UFJ銀行)入行、2007年三菱東京UFJ銀行退職。同年オムロン株式会社入社。常勤監査役を経て、2011年執行役員経営IR室長、2015年より現職。2012年経済産業省主催「企業報告研究会」企画委員会委員に就任。2014年IIRC(国際統合報告評議会)日本事務局主催「統合報告実務者意見交換会」に参画。

小杉 和枝氏

1982年日本郵船株式会社入社後、東京支店、定期船部門(コンテナ船アジア航路)、自動車船部門、定期船部門(コンテナ船アフリカ・南米東岸航路)、物流部門、IT部門、郵船ロジスティクス出向を経て、2013年10月広報CSRグループCSR推進チーム、2014年より現職。

三瓶 裕喜氏

1987年早稲田大学理工学部卒業。同年日本生命保険相互会社入社。1989年からニューヨーク、東京、ロンドンで、外国株式アナリスト、ポートフォリオマネージャー。2000年英国大手運用会社とのJV(ロンドン)CEOに就任。2003年ニッセイアセットマネジメント株式会社国内株式アナリスト、投資調査室長、統括部長(国内株式)兼国内株式運用室室長。2007年より現職。英国投資運用資格(IMC)保有。

井口 譲二氏

1988年大阪大学経済学部卒業。日本生命相互会社入社後、ニッセイ基礎研究所でマクロ経済予測業務に従事。2000年ニッセイアセットマネジメント株式会社入社。金融・素材セクターのアナリスト、投資調査室長を経て、現在、チーフ・コーポレート・ガバナンス・オフィサー、担当部長。ICGN理事(2015～)。

安井 肇氏

28年間日本銀行(ロンドン駐在、横浜支店長、考査局次長等を歴任)に勤務した後、2003年4月中央青山監査法人入所、2006年あらた監査法人(現 PwCあらた監査法人)へ移籍、2015年6月退職。2014年7月ジャパン・ビジネス・アシュアランス株式会社(JBA)グループ顧問。現在、経済産業省主催企業報告ラポ企画委員会オブザーバーのほか、一橋大学CFO教育研修センター客員研究員等を兼任。

小澤 ひろこ氏

会計監査法人系コンサルティングファームにて、企業買収および事業再編のアドバイザリー業務を経験後、新日本有限責任監査法人入所。主に企業報告、リスクマネジメント、コンプライアンスに関する各種アドバイザリー業務を経て、2012年5月国際統合報告評議会(IIRC)出向。

佐藤 淑子氏

1985年日本経済新聞社に入社。1993年日本IR協議会出向。2003年同協議会首席研究員、2007年事務局長・首席研究員。2015年専務理事。著書に「IRの成功戦略」(日本経済新聞出版社)、「経営戦略とコーポレートファイナンス」(共著、日本経済新聞出版社)など。東京証券取引所・上場制度整備懇談会委員、経済産業省「持続的成長に向けた企業と投資家の対話促進研究会」委員などを歴任。